

<with コロナ時代の決定版>
紙の QR コードなのに不正転売を防止できる
世界初の入場認証機能「MOALA QR」をローンチ！

～独自開発の生体認証技術で、「非接触」「紙チケット」「オフライン」「不正防止」を同時に実現～

総合エンターテック企業の playground 株式会社(本社：東京都渋谷区、代表取締役：伊藤圭史、以下 playground) は、紙の QR コードなのに不正転売や偽造による不正入場を 99%^{*1} 検知できる「MOALA QR」^{*2} をローンチしました。「MOALA QR」は一般的な QR コードに独自開発の生体認証技術を組み合わせることで、**世界で初めて「非接触」「紙チケット」「オフライン」「不正防止」の要件を満たした、専用端末不要な独自入場認証機能です**。本機能を活用することで、スマホを持っていない来場者でも使えて、不正も防止できる非接触なチケットが求められる with コロナ時代のイベントにおいても、来場者の利便性を損ねず、興行主としても低い負荷で各種感染拡大予防ガイドラインに沿った入場管理が行えるようになります。

*1…当社の独自調査では 99%の不正利用の検知に成功しています。 *2…国際特許出願済



■「MOALA QR」の開発背景

いま、スポーツ・エンタイベントや集客施設では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、チケットや現金の受け渡しを最小限にする**非接触な認証技術**が求められています。また近年社会問題化していたチケットの不正転売や偽造は、with コロナ時代の入場者数制限と買占めによってあらゆる興行で対応しなければならない問題へ発展すると予想されています。

3.【オフライン対応】 iPad だけで入場管理

入場ゲートに iOS アプリがインストールされた iPad/iPhone を設置するだけで入場管理ができます。オフラインでも稼働^{*4} するため、通信環境の整備は必要ありません。

*4… 基本的な入場管理機能はオフラインで完結。入場状況の管理画面への反映など、一部機能は制限されます。

4.【不正防止】本人以外の入場を検知できる

非公式の転売やチケットの偽造など、本人以外による来場が行われた場合の 99%を検知。アラートをあげて不正な入場を阻止します。

5.【セキュア(生体情報は非保持化)】生体認証技術に内在していたセキュリティリスクを最小化

本認証機能はサーバー、入場管理端末、ユーザー端末、QR コードなど、いずれの媒体にも生体情報を保持せず^{*5}に機能するため、従来の生体認証技術に内在していた情報漏えいリスクを気にせず、ご利用いただけます。

*5… 興行や実施形態によっては、サービス品質向上やカスタマーサポートのために一部生体情報を保持することも可能です

■「MOALA QR」の入場イメージ

- ①入場ゲートに専用 iOS アプリをインストールした iPad を設置。
- ②来場者は事前に受け取った QR コードと顔を iPad にかざす。
- ③認証が成功すると画面が緑色に変わり、認証に失敗すると画面が赤色に変わる。



【playground 株式会社】

スポーツ・エンターテインメント業界に特化した技術開発、コンサルティング・SI 事業を展開する総合エンターテック企業。主力事業である「MOALA」は西武ライオンズ、吉本興業、V リーグやサンリオピューロランド等の大手企業に導入されており、チケットの新しいカタチを提供しています。スポーツ・エンタメをデジタルの力で変革するべく、デジタル×リアルイベントの新しい挑戦を続けています。

- 社名：playground 株式会社 (playground Co., Ltd.)
- 代表者：代表取締役 伊藤 圭史
- 所在地：東京都渋谷区東 2-27-10 TBCビル 6F
- 設立：2017年6月1日
- 事業内容：エンタメのデジタル化支援プラットフォーム「MOALA」の提供、
音楽ライブ配信まとめメディア「#おうちライブ」の運営、
コンサルティング・SI サービスの提供
- URL：<https://playground.live>

【参考情報】

■独自の「生体認証技術」の特長

playground では従来の生体認証技術に内在していた「生体情報の情報漏えいリスク」「通信の必要性」を解決する世界初の「生体認証技術」を独自開発いたしました。

- ✓ 生体情報の非保持化...
ユーザーより送付された生体情報をサーバーやユーザー端末、QR コードのいずれにも保管することなく、本人認証が可能。漏洩すると困る情報を保持しない、という抜本的なセキュリティ対策を施しています
- ✓ オフライン化...
サーバーとの通信を行わずに本人認証とチケットの有効性を確認できるため、地下の会場や数万人が集まる会場など、通信環境を用意できない環境でもスムーズな入場管理が可能となります。入場認証は iOS アプリで完結するため、iPad/iPhone 等の一般的な端末でご利用いただけます。

■生体情報の非保持化の重要性

生体認証が内包する最大の課題が「情報漏えいリスク」です。生体情報は一度流出したら二度と変えられないパスワードであり、最もリスクが高い個人情報とされ、生体認証の普及に向けた大きな課題と認識されています。生体認証技術を開発する各社はセキュリティを強化するため様々な技術開発を続けているものの、セキュリティは本質的に暗号化技術とハッキング技術とのイタチごっこであり、完全な解決策は存在しません。そのため、クレジットカードで「非保持化」が義務化されるなど、セキュリティ業界では「そもそも持たないこと」の重要性に注目が集まっています。- 生体認証の世界でも、その普及と共に拡大するリスクに備え、Google が推進する「FIDO」規格など、生体情報の非保持化を目指した動きが活発化しています。

■従来の入場認証技術との比較

	来場者カバレッジ	興行負担	リスク
QRコード	◎ QRコード印刷のみ	X 専用端末必須 通信環境の整備が必要	X 転売/偽造リスクが高い
スマホアプリ型 電子チケット	X スマホ必須 専用アプリのDLが必要	△ 専用端末不要 来場者用の通信環境整備が必要	○ 転売/偽造を抑制可
ブラウザ型 電子チケット	△ スマホ必須	△ 専用端末不要 来場者用の通信環境整備が必要	○ 転売/偽造を抑制可
MOALA QR認証	○ 顔登録のみ 誰でも利用可能	○ iPad/iPhoneのみ オフラインでも利用可	○ 転売/偽造を抑制可 生体情報も非保持化
顔認証	○ 顔登録のみ 誰でも利用可能	X 専用設備と通信環境の 設定が必要	△ 生体情報の漏洩リスク が内在する